

小児科研修プログラム

I) 研修目標

2ヶ月の研修期間で小児の診察と手技、家族への対応の必須条件を身につける。具体的には小児の点滴、採血をほぼできること、**common disease** の診察ができ、家族に不安を与えない説明ができることを目標とする。**common disease** は主として発熱、咳、喘鳴、けいれん、腹痛、下痢、嘔吐、発疹、頭痛などを訴える小児患者である。

II) スケジュール

1. 研修第1週目は午前中外来1診について、小児科診断法の基本を学ぶ。
その後の午前中は主に外来処置番として点滴、採血、腰椎穿刺などを指導医の下に行う。
2. 13:00から17:00の時間外患者については先番として診察し、時間外当番常勤医の指導を受ける。診察場所は救急外来。入院の場合は当番常勤医とともに受け持ちとなる。
3. その他の入院患者は加納医長の時間内での入院につき、その指導医の下に担当する。
4. 準夜(17:00-23:00)の研修は毎週水曜日と二次救急輪番日に当番医師の指導の下に行う。処置番もしくは先番として。
5. 土日祝日は二次救急輪番日(毎週土曜当直帯、第1と5日曜日直帯、祝日土曜日直帯)の17:00-23:00か9:00-17:00を研修期間とする。その他の休日は受け持ち患児の診察を欠かさないこと。
6. 後半の月に英文論文抄読1回担当する。

III) 指導体制

小児科部長 坂本 泉

(小児科専門医、日本腎臓学会認定専門医、京都府立医科大学小児科臨床教授)

小児科医長 加納 原

(小児科専門医、小児救急、小児血液専門)

小児科医員 宇宿 智祐

(小児科専門医、小児神経専門)

小児科医員 田中 香織

(小児科専門医、小児科一般)

認定施設

小児科専門医研修認定施設